

# 弓道ながの

第80号

発行：長野県弓道連盟  
会長 松島貞治  
〒399-1801  
下伊那郡泰阜村4139  
TEL0260(26)2628  
編集：県弓連  
印刷：成進社

## 巻頭言

### 鍛錬するということ

長野県弓道連盟会長 松島貞治



令和四年を迎え本年もよろしくお願ひします。今年寅年。私も六回目の年男です。昨年、会長に就任した

のコロナ感染第5波の影響が予想以上で、本団体の中止をはじめ、行事の規模縮小、中止が多く何とも表現の難しい一年となりました。新年度を前に、これからの県弓連の展望を述べたいのですが、この状況下で県連を把握するところまでいっていないのでそれは通常に戻ったときにお願ひします。さて、会長になりましたが、長野県の弓士の方、皆を知っているわけはありませんし、知っていてもそれは

「弓」でのつながりで、それぞれの弓士の皆さんがどんな仕事をされ、地域でどんな役割を果たし、また、弓以外でどんな趣味をもっているか知りません。そういったことも少し分かるというなあ、と思ひながら、まずは、自分のことですが、私は子供のころから足が遅く、運動会などほとんど嫌いだっただけです。村の理事者になり宴会が続く毎日で少し運動もしなければと思ひている頃、村でロードレース大会をやるということになりました。何もしないがランナーで参加して盛り上げるか、と思ひ、ジョギングを開始。以来、市民ランナー気分分年一回ハーフマラソンも走る時期もありました。長い距離だと足が遅くても持久力でカバーでき、現在でも月に60〜70キロの

ジョギングをしています。下半身強化で弓にもいいだろうと思ひつて。ところが、七十歳を越えてから坐射のとき、膝を曲げていくと床上10cmほどでガクツと床に落ちます。走っている筋肉と座る筋肉の違い、効果がないことが分かりました。そこで思ひ出すのが濱先生(元会長)のことです。五月の京都大会で第二介添の指名があると二月ごろから蹲踞の練習をする。大体250から300を数えると甲矢が来る、毎日300数えて蹲踞の練習をするとのこと。やるんだよ、やらにやだめだよ、と若いころよく言われました。風呂でも蹲踞のまま身体を洗う、という話は大勢の方が聞いています。日ごろの鍛錬、と

口ではいいいますが、言うは易しです。弓道教本四巻で中野慶吉範士が「この秋は水か嵐か知らねどもただひたすらに田の草をとる」という道歌を「会」で引用しています。これは「会」の一念、誠を尽くす心の教えですが、まさに鍛錬、と同時の生き方に通じるものと思ひます。日々の心の持ち方、鍛錬、この継続が範士という地位を維持していくのだと教えられます。年の初めに、濱先生のことやこの教歌の神髄を思ひながら、練習、稽古、それを超えた鍛錬という言葉に思ひを馳せるところです。そういえば、昨年はわが家の稲も出来が悪く、今年こそは、と思ひますが、ただ収穫を考へるのでなく、いまできることに集中する。先を考へず、田の草に汗を流すような一年にしたいと思ひます。長野県の弓士の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。



外部コーチとして高校生とともに



## 祝昇格 思い出と生きがい

長野支部 教士六段 白澤 恒夫



コロナ禍のなか令和三年度特別臨時中央審査会が石川県で開催されました。関係役員の方々の感染防止対策の中細心の注意を払い受審いたしました。

一次審査は、立ち順も早く、さほど期待もせず淡々と引かせていただいたが通過との発表があり、二次審査は、二名での一つの的でしたが、射場の雰囲気や普段練習している公園クラブの射場に似ていたため、緊張は少し感じましたが練習のような感覚で引くことができました。

私が弓道をはじめたのは、昭和三十六年に善光寺弓道場に通り始めた時からです。当時の構造は現在と変わりのないもので、射場の奥の豊の間に火鉢が一つ置いてあり、その周りに林亮天先生、山内成豊先生のほか数名の先生方が集まり射を見ていました。各先生方からはそれぞれ気が付いた都度注意指導をしていただきました。

当時も県庁には高嶺クラブ弓道部があり、林先生から、昭和三十九年七月に豊田市で開催されました、全日本勤労者弓道選手権大会に出場してはどうかと言われました。当時の大会資料を見ると、電々信越から堀内忠和先生、飯山市役所から平野英孝先生、国鉄長野工場から長橋秋男先生、宮沢廣先生の方々が出場していました。今にして思うと、同一会場で競技をしたことに懐かしさを感じるどころです。

大会当日林先生は、私が甲矢を引き終わり乙矢を番えた時、胸で十字を切っていました。その時は分からなかったが、帰りの列車の中で「縦横十字を正しく保ち、上に一杯に伸びろ」のサインとのことでした。その後京都大会に数度参加しましたがこれを最後に、仕事の都合で昭和四十三年から平成十七年まで三十七年間弓道から離れました。

退職を期に公園クラブの初心者弓道教室に参加し、初歩から教えを受けた。そもそも、弓道を始めた動機は何時でも、又、一人でもできる運動は弓道が良いと思っただけのことである。それ

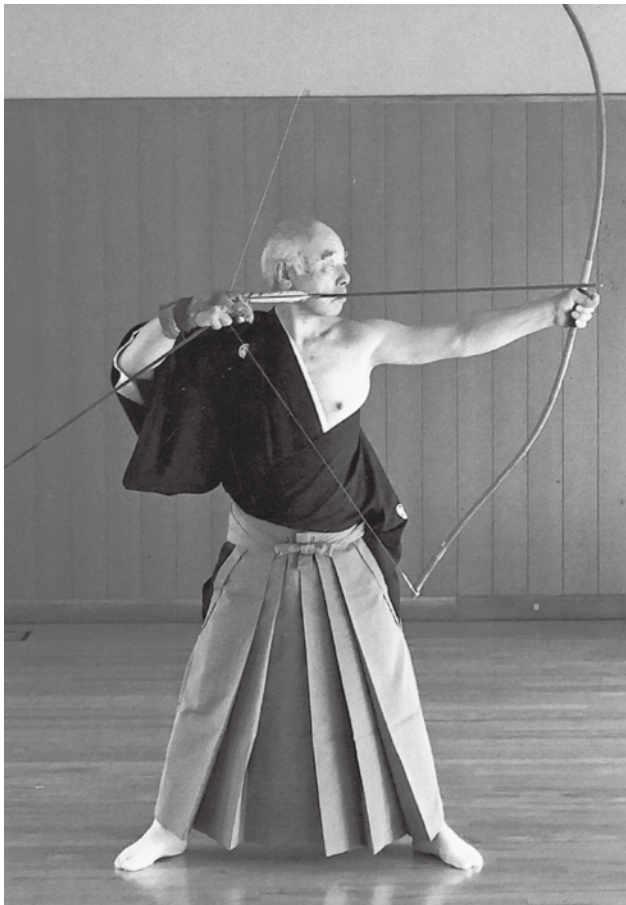
も初段か式段位で良いと思っていたが練習を重ねるうちに弓の奥深さを知り、それが現在まで弓道を引き継ぎさせてくれることとなった。

昨年、今年とコロナ禍のため殆どの大会、審査会が中止となり道場での練習が主な日々であった。審査会はその中であつて一つの節目でもあり、マンネリ化しがちな気持ちに、カツを入れられる機会でもあった。中りのない時は、気持ちも落ち込むが止めようとすると起きなかつた。それは、時として良い射が出ることもあるからである。今日はこうやろう、明日はああやろうと反省をし、また修正を繰り返す。

がら正しい射を頭に置き練習をする、その正しい射を行うための心の整理が「澄まし」だと私は思う。この澄ましを常に頭の隅に置くことで一歩一歩前に進むことができると考えている。

八十歳を過ぎ年々歳を重ね体力・気力は衰えていくが、今まで信条としてきた「老顔に備える弓法」を引き続き実践し、弓道を生きがいとして楽しく修練に励みたいと思っています。

今までご指導をいただきました諸先生方にお礼を申し上げると共に、これからもご指導を宜しくお願いいたします。



祝  
昇段  
七段

### 受け継ぎ引き継ぐもの

飯山支部 教士七段 平野 英孝



明けましておめでと〜ございませす。皆様方には、清々しい新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

この度の七段昇段に当たり、長野県弓道連盟松島貞治会長はじめ、多くの先輩・仲間・後輩の皆様のご支援をいただきました賜物と、心から感謝申し上げます。

私が弓を始めたのは昭和三十六年からで、今年で六十年が過ぎようとしております。今回の推薦をお願いするに当っては、この六十年間弓を引き続けてこられたという自負がありました。

年齢も七十六歳となりましたがまだ受審するつもりで、毎日道場通いを続けておりました。コロナ禍で審査も中止等制限が加えられ、予期せぬ出来事に、これは私の弓道人生も一区切りせよということかという思いでした。

そんな折、最大のきっかけとなっ

た理由は「平野お前が推薦を受けなければ、後の人が受けられないよ」と言う思いもなかった言葉をかけられたことでした。そのような迷惑を掛けているのだろうかと思ったりもしました。

思い起こしてみれば、日々弓を引く生活を送りながら、飯山支部で県連評議員十六年、飯山弓道会副会長二十年、会長現在まで十五年合計五十年。長野県弓道連盟では、理事六年、常任理事四年、副会長六年、顧問四年、通算二十年皆様のご支援、ご協力で務めさせていただきました。

また、高校生と関わること五十五年間。全国高等学校体育大会に監督出場も果たせたこと。

飯山の弱小支部から国体選手五人が育ってくれたことなど六十年の歩みを文字にしてみると、自分でも驚くほど感慨深いものがあり、自分なりに自分を評価したつもりでした。

それにしても、こんなに長い間弓に関わり、育ててくれたのは、我が師故古澤範士でした。

昭和三十六年から亡くなられた平

成十八年まで四十五年。師には、ご子息(故古澤金蔵氏)がおり、彼を呼ぶ時は「金蔵先生」、私のことは最後まで「平野」でした。

考えてみればご子息より身近にいたお陰で多くの経験をさせてもらい、雲の上の存在のような先生方とお付き合いができたことも、私にとって今も大事な財産です。

師は弓道に関しては、具体的に指

導してくれるようなことはほとんどなく、無言の教でした。

真摯で一途な弓道に尽くす姿勢から学んだ多くのことを受け継いだ弟子のつもりですが、受け継ぐべき弟子を育てていない無力な自分に、気がつきました。

これから、残された僅かな期間で何ができるか分かりませんが、弓を引く者としてあるべき姿を今一度

「受け継ぎ引き継ぐもの」として伝えるべく頑張ります。

古澤範士をはじめ、「平野早く七段取ってくれないと、古さんの所へ行けないんだよ!」と機会あるごとに、しっかりと手を握り応援してくださいと宮澤範士のお仏壇にも認許状を見たいと思います。

七段の決定に直ぐ、自分のことのように喜び、丁寧な心の籠もった手紙をくださった先生にも報告しなければと考えております。

結びに長野県弓道連盟の更なるご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



私の弓の原点(昭和37年10月岡山国体)  
写真手前は古澤範士と林県連会長

# 第72回全日本男子弓道選手権大会を終えて

須高支部 錬士五段 清水 北登

九月十九日に中央道場で行われた第七十二回全日本男子弓道選手権大会において四位入賞という結果を残すことができませんでした。練習の成果が結果として出たことに大きな喜びを感じています。例年であれば男女合わせて四日間、計220名ほどの選手が集い競技を行うところ、新型コロナウイルスの影響で規模が縮小され男女合わせて一日、計40名の選手参加で競技が行われました。大会参加にあたりPCR検査が義務付けられ、平日に会社を早退し検査を受け万全の状態当日を迎えました。

持ちを切り替えなんとか3中して予選を終えました。結果は1436点の5位で予選通過となりました。お昼を挟んでいよいよ決勝、控えの待ち時間は緊張で地獄にいるかのような気分を味わいました。大会で一番嫌いなのが入場前の待ち時間です。入場の一步を踏み出したときに「やっと地獄から開放された」と感じます。射位では今の自分ができるすべてを表現できるように戦うだけなので何もできない控えより気が楽です。決勝では一手引いて25分くらいのインターバルがあり、また入場する、この間をどう過ごすか大変苦労しました。息を抜きすぎていけないし、ずっと緊張していても集中が持たない状況でした。周りの選手は控えの椅子でどっしりと構えて待っていました。私はそわそわして座っていられずに館内をひたすら徘徊していました。決勝での分岐点は三立目だった

本大会の出場は平成三十年(2018年)の初出場に続き二回目となりました。前回は予選29位タイで上位20名の決勝進出ラインには届きませんでした。その時観客席で見た決勝戦は何とも歯がゆく羨ましいものでした。

予選一回目、強い太陽光が的を照らし、いつもは透けて見える籐が見えずに目で探してしまいました。体の感覚で狙いがつけられず会で苦労しました。精一杯戦いましたが十二時へ失中、上に抜けたならしょうがないと気が

とあります。二立目までで手先で引いている感覚が強くなっていきこのままではいけない、もっと矢を体に近づけるように体を開いていかないと思い直しました。結果は失敗しましたが挑戦した結果だったので後悔はありません。十本引き終わって入賞が決まり、遠近競射の結果四位となりました。悔しさと嬉しさが混在する入賞でした。コロナ禍で大会が次々に中止になる中、本大会が開催され良かったと思います。東京都弓道連盟の皆様は、例年と異なる要綱であったにもかかわらずスムーズな運営で大会を進めてくださいました。この場を借りて感謝申し上げます。また、これまでご指導いただきました先生方、ともに修練した仲間にご射が全日本の舞台で表現できるように修練を重ねていく決意です。



近影(北信越国体にて)

## 明けましておめでとうございます

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所(床暖房完備)  
12人立2ヶ所  
遠的道場 1ヶ所

弓道合宿予約随時受付中!

# 帝産ロツヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP: <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは0267-98-2861

# 北信越弓道選手権大会に出場して

上小支部 五段 藤森千友貴

第五十一回北信越弓道選手権大会が十一月七日にオンラインで開催されました。私が北信越選手権大会に参加するのは四年ぶり三回目です。

なら今日は中りそうだなと思えたので、その気持ちのまま会場に行きました。

オンライン開催で初のYouTubeデビューということでみっともない射はできないし、今年の北信越国体での中が奮わず、悔しい思いがありこの北信越選手権では良い結果を出せるように練習していました。思いとは裏腹に、大会当時までこれなら大丈夫という射がなかなか見つからず

会場に着き、大会が始まり、開会式もオンラインで行われ今までの大会とは雰囲気が違うなと感じました。やはり対戦相手がいらないから違和感を感じているのかなと思っているうちに、開会式が終わりました。

安があったため、会場に行く前に道場で練習し、そこでなんとなくこれ

開会式後に有段者男子から始まり、オンラインということではいつもとは違う緊張感がありました。ドキドキしながら一回目の立ちに入り、一回目から十二射皆中の場面が回ってきた、緊張もありましたが、的中することができ、何とかやってよかったです。



と、思いながら退場しました。続く有段者女子の部も十二射皆中で、誰もまだ外していない状態が続き、正直早く誰か外してくれと思っていたら、称号の部で外し、その場

にいた選手はみんなホッとしていたと思います。自分もホッとしてこれでいつ外しても大丈夫だなと思いきやすくなりました。

続く二回目は、最初の一本目を前の二人が外し、まさかあの二人がと思いながらこれは外せないと思いい一本目を中て、その勢いのままもう二本中て、皆中がかかった四本目は中てれば個人もいといけるのではと頭の中で考えていたら矢筋に思いつき緩みました。が、運良く中り皆中できました。YouTubeにその映像が残ってしまったのは残念であり、恥ずかしいです。

続く三回目は、二回目が終わった時点で福井県が二十二中で同中、新潟県が二十一中で一本差と接戦で一本でも外したら負けるかもしれないから次も何とか頑張ろうと思いい、立ちに臨みました。また十二射皆中の場面が回ってきて、初立もできたから大丈夫と思いきませ引き、的中し、終わってみれば長野県が大差で勝っており、一安心しました。

個人でも北信越選手権では初めて優勝し、よい結果で終わることができました。他の部門も団体、個人ともに長野県が優勝し、長野県はやっぱり強いなと改めて思いました。



今年は国体選手に成年で初めて選ばれ、北信越国体では遠的、近的共にあまり良い結果を出すことができませんでした。悔しい思いをしていました。しかし、国体も中止となり、北信越国体の悔しさをぶつける機会がない中、北信越選手権に出場させてもらい、悔しさを少しでもぶつけることができ、いい経験ができました。この経験を次に繋げられるよう練習に励みたいと思います。

最後となりますが、オンラインという中でも、大会を開催していただいた競技部長の内山先生並びにスタッフの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 中央審査受審にあたって

範士八段 杉田 博

令和三年度の中央審査ではコロナ禍という特殊事情もあってか稽古不足のまま審査に臨まざるを得なかったと思われる受審者が多いように感じられました。しかし特殊な年だったからといって審査基準が甘くなるわけではありません。中央審査を受審する人のヒントになればと思います、一審査委員として幾度かその場に臨んで気が付いたことを述べてみたいと思います。

## 体配

○執弓の姿勢は入場する前から退場し終わるまで同じでなければなりません。こんなことは誰でも知っていますが、審査会場ではできていない人がいくらでもいます(そもそも最初から執弓の姿勢が正しくできていない人もいますが)。入場するときには誰でも気を付けて入場します。しかし歩いている間に変わる、射位で変わる、弓倒しで変わる、射終わって退場するときが変わる…。

○入場(退場)の礼、揖は上座に正対し

て。これも誰でも解っていることです。しかし顔(視線)だけが上座に向いていて体は違う方向に向いている人が結構います。仲間にその正否をチェックしてもらいましょう。何処の道場でも(入場口が違い上座の位置が違ってても)正しく上座に体が正対できるよう稽古してください。

○歩く、廻る、坐る、立つ、止まる。これらの動きは誰でも簡単にできそうですが、なかなか難しいものです。おろそかにすることなく日々稽古してください。

○肌脱ぎ、肌入れ、襷捌き。身に付いている人と、動作を記憶しているだけの人の違いはすぐに判ります。一つ一つの動作に意識が集中しすぎるとスキが生まれます。動きのない(少ない)身体の部分や、弓の先・矢の先まで気配りができるようにしたいものです。

## 射法

射法八節のそれぞれについて幾つか気が付いたことを挙げようかと思いま

したが、考えてみると、自分の正しい矢束を過不足なく引き収め、『胸の中筋に従い、宜しく左右に分かるる如くこれを離つべし』をいかに体現するかということに尽きると思います。

全日本弓道連盟の中央審査を受審するということは全日本弓道連盟が求める指導者を目指すということ。だとすると、全弓連の目指す弓道を理解し、自分自身もそれを追求し、またそれに沿って指導もしていかなければならないわけ。錬士の一次審査を通過すると面接があります。その場でいくつか質問されて最後に『指導者になつたらどのような心構えで稽古を続けていきますか?』というようなことを問われます(特に初めて一次を通過したときは確実に)。その問いにどう答えたらいいかということは、ほかの質問の解答も含め多くの情報が出回っているようです。まずはそつなく答えられると思います。しかし答えられたからそれでよしというのではありません。将来にわたってそれを実践できるか指導者としての資質が問われているということです。(教士の面接も同様です)

弓道教本第一巻をただ読んで頭に入るだけでなく、道場で一ページ、一行

ずつ実践してみてください。新たな発見や気付きあるいは自分が勘違いしていたというようなことも出てくるかもしれません。更には教本二〜四巻、弓礼・弓法問答集はじめ副読本もしっかり読み込み実践することで身に付けてください。大いに試行錯誤を繰り返してください。大多数の人にとっては生涯かけて精進しても自分が納得できる弓を常に引けるようになることは不可能と思われるほど難しいことだと思いますし、もしあると満ち足りません。試行錯誤の繰り返し自分の弓を上達させる(これは私の持論にすぎませんが)と思つて精進を続けてください。



# 弓仲間紹介

南佐久支部 菊原 秀浩

私が初めて弓を手にしたのは、平成十年であったと記憶しています。弓道を志したきっかけといえは極めて稀なことですが、たまたま訪れたリサイクルショップに、弓二張り、矢筒(桜皮)、犬鷲尾羽の矢、白鷹の石打の矢それぞれ四本がセットで売られていた物を購入したのが弓道との出会いです。その時の気持ちとしては弓具を所有しているだけではもったいないと思ひ、近所にある稲荷山弓道場を紹介していただき、白田弓道会に入会しました。



入会時の先生は、日暮千曲教士であり、休日、平日、早朝、夜間を問わず教歌を交えながら弓道の指導を受けていました。引分けから会に入ったとき、よく「肩根、肘裏、剛弱」と声をかけられ、離れでは「離す射でなく、離れる射を」と言われたのを思い出します。また、先生は特に体配を重要視され、息合ひについて厳しく指導されました。

た。先生は、旧制小諸商業在学中に弓道を学ばれ、復員されたのち野辺山の亀岡範士に本多流を学ばれていたのとなりました。

当時の稲荷山弓道場での月例会では、少数精鋭で行われており女性の参加は、高校生を除いて皆無の状況でした。それでも小満祭弓道大会では、120名を超える参加者があり、にぎやかな弓道大会となりました。

平成二十三年に新道場が建設され支部の仲間も徐々が増え現在では例会も年を追うごとに盛況となり、女性の入会者も多く大人数での月例会の開催になり弓技向上のため切磋琢磨しております。

現在は長野県内の感染拡大レベルも下がり、段々と練習環境も整ってきているので、支部の皆さんと共に弓道を始めた頃を思い出しながら、初心に戻り稽古に励んでいければと思っております。早期にコロナ禍が収束し、日本社会が平穏を取り戻すことにより、各種審査・大会が以前のように開催できることを祈念しております。

# 祝射会招待者

《敬称略》

## 令和元年度

長野県スポーツ振興功労者表彰  
・有功章 奥山 誠治

## 令和2年度

長野県スポーツ振興功労者表彰  
・有功章 松島 貞治  
・有功章 宮坂 博之

## 入賞者

○第39回全国高等学校弓道選抜大会  
・女子団体5位入賞  
宮脇 萌花  
小室 葵  
菅野 雪菜  
内山 心結  
田中 宏幸

○R3全国オンライン弓道交流大会  
・2位入賞  
蟹澤 契太  
馬場 絢音  
蟹澤 史弥  
岩村 拓生

## 監督

○第72回全日本弓道大会オンライン大会  
・3位入賞 藤澤 敏恵  
・3位入賞 馬場 絢音  
・3位入賞 生田 憲克

○第66回全国高等学校弓道大会 女子個人  
・3位入賞 石井 澤

○第72回全日本男子弓道選手権大会  
・4位入賞 清水 北登

## 春・秋の叙勲(R2)

・旭日小綬章 松島 貞治  
・瑞宝中綬章 山田 鏹二

## 昇段・昇格者

・錬士 小田切祐典  
上條 朱美  
矢部 誠一  
江守 香

## 教士

高地美佐子  
白澤 恒夫  
藤澤 敏子  
平野 英孝  
山浦 博

## 七段

小林 克  
平野 英孝  
藤澤 敏子  
村松 和彦

## 退任役員

小田切祐典  
上條 朱美  
矢部 誠一  
江守 香

## 最優秀支部

上伊那支部

※昨年度祝射会が開催できなかったため昨年度の対象者も含まれません。

# 大会結果

## 第72回全日本弓道大会

○令和3年4月24日(土) ～ 7月31日(土)

加盟団体の各弓道場

参加人数…有段者1439名、

錬士の部596名、教士の部448名

### ▲有段者の部

- 3位 藤澤 敏恵(長野県) 4中
- 3位 馬場 絢音(長野県) 4中
- 3位 生田 憲克(長野県) 4中

## 第72回全日本男子弓道選手権大会

○令和3年9月19日(日)

### ▲最終順位

- 1位 石川 嵩(大分県)
- 2位 松田 智行(青森県)
- 3位 柴田 誠一(栃木県)
- 4位 清水 北登(長野県)
- 5位 友安 正人(石川県)

### ▲最高得点賞

坂本 達雄(青森県)

## 第64回松本市民体育大会 秋季弓道大会

○令和3年10月10日(日)

松本市弓道場

参加人数…高校11名、一般36名、合計147名

### ▲高校女子(8射)

- 1位 百瀬 美紅(松商A) 6中
- 2位 滝澤 佳奈(縣陵A) 6中
- 3位 青柳 愛美(松商E) 5中

### ▲高校男子(8射)

- 1位 成田 拓未(松商C) 6中
- 2位 丸山 春樹(松商C) 6中
- 3位 宮下 七輝(松商B) 6中

### ▲一般(予選4射、決勝4射 計8射)

- 1位 丸山 淳子(松本弓道会D) 8中
- 2位 松井 幸彦(安曇GPa) 7中
- 3位 西澤 徹(大北) 7中
- 4位 松嶋 孝子(松本弓道会D) 6中
- 5位 本山耕一郎(安曇GPa) 5中

## 第76回県下南信弓道大会

○令和3年10月24日(日)

飯田運動公園 県営飯田弓道場

参加人数…高校98名、一般40名、合計138名

### ■個人の部

#### ▲高校1年

- 1位 後藤 依央(阿智D) 3中
- 2位 平田 聖命(飯田F) 3中
- 3位 秋山 太志(阿智A) 3中
- 4位 片町 優斗(阿智A) 3中
- 5位 山崎 陸斗(飯田風越B) 3中
- 6位 廣庭 悠馬(松川B) 3中
- 7位 村沢 光基(飯田風越A) 2中
- 8位 熊谷 星河(阿智C) 2中
- 9位 松下 颯斗(ブリキユアX) 2中
- 10位 笹岡 優衣(阿智D) 2中
- ▲高校2、3年
- 1位 大場 来覇(OIDE長姫A) 7中

## 私と弓道

### 塩尻支部 四段 本道 啓行

の弓道場や塩尻市弓道場で練習をし、周囲の助けや協力を得ながら、高校二年の時には県大会個人戦で優勝することができました。

私が弓道を始めたのは高校からで、当時はどの部に所属するか悩んでいましたが、部活動紹介や見学会で実際に弓を引いている先輩方の姿を見て感銘を受けたのがきっかけでした。弓道は高校から始める人がほとんどで、自分の努力次第で大会メンバーになれるため、仲間と切磋琢磨しながら練習に励んでいました。また、入部したての一年生だった当時、三年生の先輩が県大会個人戦で優勝する姿を間近で見ることができたことで、より一層弓道を頑張ろうと思えました。入部してから数カ月して、平日夜間に開催された塩尻市弓道教室に通うようになり、夕方の部活終わりに塩尻市弓道場に足を運び、塩尻支部の先生方から体配や射技指導について、より細かな指導を受けました。それから時間が経つにつれ、他の同期は上達していくのに対し、私はいくつとかなかなか上手くないことの方が多く、結果が出せずに大会メンバーにも選ばれなかった悔しい思いがあります。それでも「とにかく上手になりたい」。その一心で毎日のように学校

高校卒業後は長野県を離れ、関東の大学で弓道をしていました。大学弓道では的の中のレベルの高さや独特の世界観に戸惑いながらも、充実した四年間を過ごすことができました。現在は高校生の頃からお世話になった塩尻支部に所属し、その一員として活動しています。

今思えば、高校生の時に弓道と出会ってからは、多くの方々との出会いがなければ今の私はないと感じております。最後になりますが、弓道仲間、先輩、先生方、いつも応援してくれている両親、家族といった自分の周りの全ての人への感謝を忘れず、これからも弓道に励んでいきたいと思っております。

追伸 加藤先生へ。これからも僕らのこと、見守っていただきね。





2位	渡部 裕一(飯田A)	5中
3位	前田 大聖(OIDE長姫B)	5中
4位	矢澤 朋香(飯田E)	5中
5位	山崎 拓夢(飯田A)	5中
6位	塚田 颯太(飯田A)	5中
7位	北川 聡真(OIDE長姫A)	5中
8位	塩澤 礼夢(OIDE長姫B)	4中
9位	岩本 瑞樹(松川A)	4中
10位	塙 友利(飯田B)	4中
▲一般		
1位	岩村 拓生(JMC)	11中
2位	井坪 大樹(泰阜)	11中
3位	坪井 優(矢真飛)	10中
4位	中村 健二(矢真飛)	10中
5位	三石 正博(JMC)	9中
6位	松島 貞治(泰阜)	8中
7位	塩澤 忍(松川)	8中
8位	北原久美子(令和真誠)	8中
9位	松村 和重(混成)	8中
10位	笠原 武明(松川)	8中
■団体の部		
▲高校		
1位	飯田A(渡部裕一、塚田颯太、山崎拓夢)	18中
2位	OIDE長姫A(北川聡真、大場来覇)	13中
3位	飯田B(塙友利、平栗弘一、尾澤良太)	12中
▲一般		
1位	矢真飛(中村健二、坪井優、平澤敏弘)	27中
2位	JMC(宮崎晃瑠、三石正博、岩村拓生)	27中

3位 泰阜(井坪大樹、林知佳子、松島貞治) 17中

第19回千曲市長杯弓道大会

○令和3年10月24日(日) 千曲市弓道場  
参加人数・13名

■一般個人の部(8射)

1位	中野 孝志(千曲)	8中
2位	久保田 透(千曲)	6中
3位	内山 貴之(千曲)	4中
4位	久保田智恵(千曲)	4中
5位	工藤 弘行(千曲)	4中

第51回北信越弓道選手権 オンライン大会

○令和3年11月7日(日)

■有段者団体の部

▲男子		
1位	長野県	
2位	新潟県	
3位	福井県	
4位	石川県	
5位	富山県	
▲女子		
1位	長野県	
2位	石川県	
3位	福井県	
4位	富山県	
5位	新潟県	

■有段者個人の部

4位	新潟県
5位	富山県
▲男子	
1位	藤森千友貴(長野)
2位	保科 良介(長野)
3位	高木 一(福井)
▲女子	
1位	馬場 絢音(長野)
2位	飯野 葵(長野)
3位	市森咲也香(石川)



〒380-0935  
長野市中御所1-12-5  
TEL ▶ 026-228-3443  
FAX ▶ 026-223-4855  
通常 ▶ 8:00~18:00  
日・祝 ▶ 8:00~17:00  
定休日 ▶ 月曜日  
全日本弓道具協会会員

# 謹賀新年

遠的ダンボール白黒 (79cm・100cm)  
遠的ダンボールカラー (100cm)  
遠的紙カラー貼り合わせ (100cm)

有限会社 **中島弓具店**  
URL ▶ <http://www.nakajima-kyugu.com>  
E-mail ▶ [info@nakajima-kyugu.com](mailto:info@nakajima-kyugu.com)



称号受有者団体の部

- 1位 長野県
- 2位 石川県
- 3位 福井県
- 4位 新潟県
- 5位 富山県

称号受有者個人の部

- 1位 清水 北登(長野)
- 2位 増田 弘幸(福井)
- 3位 志村 仁(長野)

第77回国民体育大会弓道競技  
長野県成年男女一次選考会

○令和3年11月14日(日)

塩尻市営弓道場

参加人数・男子24名、女子12名

会長推薦者を含む

▲成年男子14名

- 山崎 征樹(須高)
- 新津 一夫(須高)
- 蟹澤 契太(上伊那)
- 岩村 拓生(飯伊)
- 小田切祐典(須高)
- 水間 貴大(佐久)
- 藤森千友貴(上小)
- 中村 健二(飯伊)
- 保科 良介(上伊那)
- 蟹澤 史弥(上伊那)
- 清水 北登(須高)
- 林 貴徳(木曾)
- 平澤 敏弘(飯伊)
- 岩原 祐貴(諏訪)

▲成年女子9名

- 大山 綾(松本)
- 馬場 絢音(上伊那)
- 大橋 歩実(佐久)
- 藤澤 敏恵(長野)
- 米持 奈々(須高)
- 高地美佐子(上小)
- 平瀬 修子(飯山)
- 萱沼あすか(長野)
- 保科 茉柚(塩尻)

昇段昇格者

○令和3年度 推薦結果

七段の部

- 平野 英孝(飯山支部)
- 山浦 博(佐久支部)

表彰

○令和3年度

飯田市スポーツ協会より表彰

功労賞

- 小松 哲(教士六段、飯伊支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 大北支部

式段 下坂 昌幸(50歳)

令和3年11月6日(土)

ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
お知らせ申し上げます。

Q&A

……みなさんはどうですか……

先日、何気なくテレビを点けたら和楽器の琵琶を修復するイタリヤ人の方の話を放映していました。自分は修理ではなく修復をしている。「修理」は傷を削ればいい音が安っぽくなる。「修復」は可能な限り元に戻す事で、その琵琶の持っている音色を変えない。そう言っていました。でも、そういう思いになるまでには、師匠に弟子入りしてから、毎日毎日同じ事のくり返りで、道具と木材とケンカをしていて、常に手の傷が絶えず、師匠から「道具は『武器』ではないよ」と言われ、その事に気づいてからは怪我をしなくなったそうです。

みなさんはどうですか？ 弓とケンカしていませんか？ 中らないと矢のせいになり、喋のせいになりしていませんか？

私もその昔、先手に堅い豆を作りカッターで削ったり、右頬を弦で打ち赤くしたりと、弓とケンカをしていました。

今も時々してしまいます…苦笑  
そのイタリヤ人の方が言っていました。「道具と仲良くなれば、最大限の力を発揮してくれて琵琶の音色に繋がる」と。

私も今一度、弓、矢、鏢と仲良くしてみようと思います。  
みなさんはどうですか？

飯伊支部 木村由紀子